

2020-8-12

ふじさわ・九条の会ニュース

No.61



発行人 ふじさわ・九条の会 事務局長 吉塚晴夫 090-7949-9854

HP(ホームページ) <http://hws2.spaaqs.ne.jp/fujisawa9jo/>

検索「ふじさわ・九条の会」でも開けます。

中学校教科書採択 育鵬社不採択！ みんなの教育・ふじさわネット 松本一郎 9年ぶりにやっと「普通の教科書」に

7月31日、藤沢市教育委員会臨時会が開かれ、2021年4月から使用する中学校教科書の採択を行いました。歴史と公民で問題となっている「育鵬社」は採択されませんでした。ふじさわ・九条の会のみなさま、および各種の市民運動に関わりながら、教科書問題の動向にも注目していただいた藤沢市内外のみなさんの協力のたまものだと思っています。ご協力ありがとうございました。

育鵬社不採択、先生方の意向が尊重され、 教育委員の合議で決定の快学

午後2時から藤沢市民会館で開かれた教育委員会に、151人が傍聴を希望しました。定員75人で、抽選にもれた方々は小ホールで採択の様子を見守りました。

岩本将宏教育長が最初に「教科用図書調査書に示された先生方の貴重な意見を大切に、採択を進めたい。藤沢市の子どもたちにふさわしい教科書を決めていきたい。」と表明して審議が始まりました。

歴史では、木原明子・飯島広美・市村杏奈の3委員と岩本教育長が東京書籍を、大津邦彦委員が帝国書院を推薦。いずれもまじめな発言でした。結果は岩本教育長から、「東京書籍」としたいと委員に聞き、了解ということで採択されました。

公民では、木原・市村委員と岩本教育長が東京書籍を単独で、飯島・大津委員が東京書籍と帝国書院の両社を推薦、「東京書籍」を採択しました。「育鵬社」の名は一切出ませんでした。

藤沢市は学校の意見、保護者の意見が 採択に生かされている

藤沢と同様に「育鵬社」が採択され続けている横浜市から傍聴に参加された方の感想を以下に引用させていただきます。

『教育委員が全員、推薦する教科書会社をはっきり理由を言って発言しているので、(横浜のような)投票など必要ありません。教育

長が委員の発言から、推薦の思いの強さも把握して合議の方向を探っている様子がよくわかります。横浜から見るととてもまともで新鮮でした。藤沢市では、現場の教員の意見が、委員にとって一番信頼できる資料として認知されている、これが横浜との一番の違いだと思つづく思いました。』

なお、8月4日に行われた横浜の採択の結果は、歴史は帝国書院、公民は東京書籍となり育鵬社は不採択。喜ばしい結果になったことを共に分かち合いたいと思います。

藤沢の中学生に より良い教科書が手渡されます

2011年、2015年、2019年と「育鵬社」の歴史と公民の教科書が採択され続けました。「現場の先生方、保護者の意向を尊重して採択して下さい」という賛同署名に「藤沢の教科書・採択問題にとりくむ会」等3団体で2015年、2020年と2回取り組み、今年、集約した署名は約3万8千筆。今年はコロナ禍のため郵送で呼びかけ、「子どもと教科書全国ネット21」にも協力いただき、5月中旬から連日のようにポストに沢山の封筒が届きました。北海道や九州からも届き、ビックリすると同時に、こんなに多くの方々が、教科書問題に関心をもっているのだと驚きました。

「育鵬社NO」の教育ネットの運動に協力いただいた皆様に改めてお礼申し上げます。



「平和の礎」に第二人の追加刻銘が

崎山 稔

今年6月、国籍や軍人、民間人の区別なく沖縄戦などで亡くなった全ての人々を刻む糸満市摩文仁の「平和の礎」に新たに私の弟2人を含む30人の名前が入った刻銘板が設置されました。



平和の礎(資料映像)

サイパンで7人家族のうち両親、姉、兄と弟2人の6人をアメリカ軍の艦砲射撃で失い、運よく私だけが生き残ったことは、既に「ふじさわ・九条の会」の「私の戦争体験記」第3集に載っています。お読みいただけたら嬉しいです。

さて、「平和の礎」のことですが、今回2人の弟が追加刻銘されたことが「沖縄タイムス」と「琉球新報」に掲載されました。その後すぐ「東京新聞」からも問い合わせがあり、藤沢通信部の記者さんと2時間近く話し合い、6月19日の東京新聞に写真入りで載りました。三社共通の内容は、なぜ今追加刻銘となったのかということでした。沖縄は皆さんご存知のように、あの忌まわしい沖縄戦によって県民4人に1人が亡くなりました。そして戦後1972年5月の本土復帰まで米軍の支配下に置かれていたのです。



写真は崎山さん。1997年6月撮影。

戦後、沖縄県民は全土焦土となったうえ、土地を奪われ、失くなった戸籍の作成に追われ、やっと復興へ向けて全県民が一丸となって新たな前進を始めたのです。とりわけ戸籍の作成は生き残った者が、わずかな資料と聞き取り調査などで時間をかけて作り上げました。

私の家族の戸籍は当時健在だった祖父母が叔父と一緒に残された写真、書類からサイパン島に移った経過、全員が死亡したことを引き上げてきた人たちから情報を得たうえで死亡戸籍を作成したとのこと。当時の私「稔」だけは生き残って内地（日本本土）に行ったことを掴み私の情報を集め祖母と伯父が逗子に会いに来てくれたのです。

当初生き残った私の戸籍は沖縄に登録されましたが、生年月日が全然違って、沖縄が日本に復帰してから占領下にあった戸籍を私が住んでいた神奈川県に一体化できたのです。それまでは戸籍が2つあったのです。

今年はコロナ問題で沖縄には行けませんが、来年6月には「平和の礎」に行つて6人の名前と全員が一つになったことを確認したいと思います。その時に平和憲法、憲法九条の大事さを報告してくるつもりです。

東京新聞 2020年6月19日から

平和の礎は一九九五年に建立された。国籍や軍人が民間人かの区別なく沖縄戦で亡くなった人や、三一年の満州事変から十五年戦争期間中に戦争で命を落とした沖縄県出身者らが刻銘の対象となる。毎年、追加・修正される。

~~~~~  
帰国後に戸籍をつくつた際、「弟たちは名前がはっきりしないということで入らなかった」という。そのため、崎山さんは平和の礎への申請を諦めていたが、長女直子さん(51)が「何とかしてあげたい」と沖縄県とやりとりして、今年、追加刻銘が実現した。



## Tさんの投稿「私の戦争体験」

私の兵隊時代に所属していた部隊で逃亡した兵がでました。その体験をお話したいと思います。

私は昭和17(1942)年12月に入営し満州ハルピンに送られ、機関銃中隊に配属されました。訓練を経て私は沖縄に移送され宮古島での陣地構築に従事しました。そこでの体験をお話しします。



(参考)日本軍とともに飛行場設営に従事する女子挺身勤労隊。宮古島

昭和20(1945)年の8月15日を過ぎた9月初旬、部隊本体から離れた地区に残留していた、私たちの中の歩兵が逃亡し捕まったのです。逃亡兵を営倉に入れるでもなく地面に掘ったたこつぼに押し込んで、上から蓋をして弾薬箱を重しに置いて閉じ込めたのです。

宮古島の9月は真夏の太陽が照りつけ、たこつぼの中で身を折り曲げた姿勢に加えて、マラリヤの発熱での苦しさから「苦しいよ、出してくれよ」という弱々しい声が聞こえてきました。

夜に不寝番に立った私にもその声は聞こえ、思わずたこつぼから遠ざかったことを思い出します。水の一杯も飲ませてやれば良かったと、今思えば見殺しにしてしまったのです。結局3日目の朝に彼は死んでいました。材木を積み上げ火葬に付したのですが、果たして彼の遺骨は家族の下に届いたのだろうかと思えます。当時の陸軍刑法では敵前逃亡は死刑となつてはいましたが、敗戦後の出来事であり米軍も上陸しておらず、宮古島という国内での処置であっただけに不当な処置だったと、今は思っています。



日本軍が構築したとみられる壕跡。城辺長間

もう一つ忘れられないことがあります。海軍飛行場付近の第11中隊に派遣されていた時、グラマンが盛んに機銃掃射を繰り返していた中でのことです。横浜出身の一兵士（彼とは横浜の伊勢佐木町の思い出を話したことがありました。）が逃亡、一週間後に捕縛されました。彼は中隊の点呼場になっていた広場の松の木に縛り付けられましたが、夜になると大声で上官の悪口を叫ぶのです。その度に上官が六尺棒で殴りつけるのですが、大声は止まず更に殴るの繰り返しで、しまいには声は聞こえなくなりました。朝方には松の木に死体はなく、大隊本部への通知は「病死」であったと聞きました。これはなぶり殺しに等しい殺人事件として私の身边に発生し、助けを求める声を聞いているだけに、当時は何も出来ない状況であったとしても何時までも心に残っています。

苦しい、ひもじい、悔しい、悲しいなど自分自身慚愧に堪えない思いがわずか4年の軍隊生活の中に凝縮しています。いま90歳を迅うに超えてしまい、何も出来なくなつてしまいました。目が見える内に書いておこうと筆を執りました。

## 201国会での法案

「国会を閉じるな」の多くの声にも関わらず、安倍晋三の国会論議嫌悪を見せつけるように6月17日に閉会した第201回通常国会、この国会では黒川インスタント検事総長法案を私たちは阻止することができた。だが少なからぬ利権法、憲法違反法が成立した。例えば国家戦略特区法の改正という形をとっての、プライバシー根絶法というべきスーパーシティ法である。

同様に個人のプライバシーを利権に流用する「改定電気事業法」である。全家庭に有無を言わず設置されてしまったスマートメーター、これは電気使用量を計測し東電に送信するものである。そこから各家庭の世帯構成や在宅活動状況が推測できる(赤旗より)。改定電気事業法は家庭の電力データをビジネスに利用することを可能にしている。あらゆるビッグデータは莫大な儲け、利権を生む新たな培養地である。

そして新型コロナウイルスの蔓延により国民生活が大混乱に陥る中で、年金受給を先送りする年金制度改定法など「全世代型社会保障改革」関連の法律はコロナ対策に全力を集中すべき時に、何故こんな不要不急の法案を出すのか全く理解に苦しむものであった。

また見送りとなったものの種苗法改定法案は、農家の自家採種を禁止し、モンサントなどアグリビジネスに奉仕して、家族農業を壊滅に追い込み、日本を更に食糧自給から遠のける法案であった。

10兆円という巨額の予備費を含む補正予算案に、少なからぬ野党が賛成に回ったことは大きな汚点である。

## 束ね法案の問題

さてこの国会でも安倍政権の常套手法である、束ね法案の姑息さが際だった。束ね法案とは何か。複数の法律を改正するときこれを一本の法案として提案するものである。

過去に安倍政権が出した束ね法案を列挙してみよう。

2014年 地域医療、介護の総合確保法 13本の法案を一括

2015年 電気事業法改正法 7本

そして同年のあの安保法制は10本である。2018年の働き方改革関連法は労基法他8本。

## 黒川検事総長問題

今国会で提出されたものの中で、最も世論を賑わしたのはあの「黒川インスタント検事総長法案」である。

これは国家公務員法等の一部を改正する法案として、10本の束ね法案であった。その内容は「国家公務員法」「一般職の給与に関する法律」「国家公務員退職手当法」「検察庁法」「検察官の俸給等に関する法律」「教育公務員特例法」「警察法」「自衛隊法」「防衛省の職員の給与等に関する法律」「会計検査院法」である。

束ね法案の問題点は以下のように指摘できる。「国会審議を形骸化し、国会議員の議決権を侵害する。国民への情報公開の観点からも不適切である。複数の改正案等を一本の法案として提出することにより、法案の問題点に付いての詳細な議論が制約される。そもそも何の法律が改正されるのかさえ国民には見えにくくなる。個々の法案に対する賛否が異なる場合でも、束ね法案では一括して賛否を表明しなければならない。これは国会議員の表決権を侵害する。」(吉川さおり参議院議員)

また国会論戦を意図的に制約しようとする為とも思われるが「誰も反対しない法案に議論を避けたい法案を束ねれば、質問が減って議論が薄まる。法案を通したい霞ヶ関の定石だ。」(東京新聞より)

黒川インスタント検事総長法案は本来法相の森雅子が答弁に立つべきものであったが、森法相の答弁能力の信頼性の無さから公務員制度担当相の武田が答弁に立った。だがその迷走答弁によって反って森の国会論議からの逃亡が際立ってしまった。その政府答弁のひどさと議論のすり替え、隠蔽が明らかになりSNSを通じた世論が爆発し、廃案に追い込んだのである。

## 再生可能エネルギー促進予算が原発処理に

一方でエネルギー対策特別会計(エネ特会)改正案はまんまと通されてしまった。これは



復興庁の設置を10年延長する復興庁設置法改正案など5本の法案を束ねたものである。これも本来は経産相の梶山が答弁すべきものであるのに、梶山が答弁に立つことはなかったのである。

これで再生可能エネルギー普及の財源を東電福島原発の事故処理へ流用できるようになってしまった。エネ特会は財源と使い道ごとに「勘定」を分けている。「エネルギー需給

勘定」は石油会社などが負担する石油石炭税を財源に、再生エネルギーや石油などの開発促進に使う。私たちが払う税金、電気料金が最も望まない福島原発の事故処理に流用されることが、法的に認められてしまったのである。

安倍晋三が最も嫌う国会での議論、私たちは本質的な議論をこそ強く望み注視していかなければならない。

## 韓国映画に魅せられて

チームみつばち 亀田典子

16年前日本で社会現象にまでなった韓国のドラマ「冬のソナタ」。私もNHKで放送された一連の韓国ドラマにすっかりはまってしまいました。当時一番好きな俳優はイ・ビョンホン。彼が出演している映画を片っ端から観た中で、特に印象に残った作品が「JSA」です。



南北の境界線である38度線に設けられたJSA(共同警備区域)で繰り広げられる韓国と北朝鮮の兵士の心の交流と分断の悲劇を描いたこの映画で、南北問題の深刻さを知ることができました。

北の兵士を演じたのが、今年アジア映画として初めてアカデミー賞の作品賞受賞という快挙を成し遂げた「パラサイト 半地下の家族」で主演した今や韓国を代表する俳優、ソン・ガンホです。ソン・ガンホの作品では、故盧武鉉(ノ・ムヒョン)大統領をモデルにした映画で1980年代の軍事政権下での冤罪事件を描いた「弁護人」も素晴らしかったです。

ソン・ガンホ主演の「タクシー運転手～約束は海を越えて～」で光州事件に関心をもち「光州5・18」も観ましたが、どちらの映画も民主化に命を懸ける学生や市民の姿に涙が止まりませんでした。「1987、ある闘いの真実」も韓国の民主化闘争を描いた胸に迫る映画です。

私が韓国映画が好きな理由は、社会性や問題意識に富んだ作品が多いということです。恋愛映画で最も好きな映画は「ラブストーリー」ですが、サウンドトラックにクラシック音楽を使用して切なさを募らせるこの映画の中でも、ベトナム戦争が重要なシーンとして出てきます。

今まで観た韓国映画のベストワンは、何といても「国際市場で逢いましょう」です。朝鮮戦争時に父と妹に生き別れてしまった主人公が、家族のために激動の時代を体を張って生き抜く一生が、そのまま韓国の歴史と重なります。主人公のひたむきな生き方に何度も号泣しました。

ファン・ジョンミンは、近作では「工作 黒金星(ブラック・ヴィーナス)と呼ばれた男」で北朝鮮にスパイとして潜入する役を演じていますが、この映画も1997年の韓国大統領選挙を巡る南北の裏側を描いていて大変見応えがありました。

史実をもとにしながら、それを一級のエンターテインメントに仕上げってしまう韓国映画の底力にはいつも圧倒されます。まだまだ未見の韓国映画がたくさんあるので、これからも映画を堪能しながら、日本と深く関わりのあるお隣の国の近・現代史や文化を学んでいきたいと思っています。



## 県議選で勝ったのに！？県議会は、野党優勢？

### 辺野古現地では運動が続く、効果的な支援を！！



参議院議員らと話したところ、県議選挙で私が支援した革新側は勝利しましたが、保守に近いオール沖縄の会派が落選して3名になり、赤嶺団長が野党と議長選挙で裏取引したようです？しかし、副議長選で団長以外の二人は、自民党副議長には白票でした。デニー県政は揺さぶりをかけられますが、攻防を続け耐える事が必要です。

辺野古工事で一番大きな、大浦湾のマヨネーズ土壌では、許可された工法では工事ができないのです。デニー知事の権限があれば、大浦湾側での工事変更はできないのです！（変更申請を県が許可しないとして、裁判所に国が訴える戦略と思われまます=司法は安倍政権を付度する？）

### 県議会がデニー知事を揺さぶるが 土砂の県条例の改悪はできない！？

県議会は辺野古移転反対の公明党や選挙公約で辺野古反対の会派があるので、条例の改悪の展望はありません。その上、県内だけの土砂では埋め立ての数%だけ？赤土だけでなく県外の土砂を運ばないと、深い大浦湾は埋められない！？それ以上にマヨネーズ土壌では、無理やり作っても震度1の地震でも、滑走路が崩落しかねないのです。



沖縄でも4月に海外帰国者等で、コロナ感染者が倍増しました。東京&首都圏はもっとですが！！今度は一番恐れていた、アメリカからのコロナウイルスの持ち込みが明らかになりました。普天間基地やキャンプハンセンから143名の陽性者が出ました。今の日米地位協定では米軍は、日本のチェックなしに勝手に入国できてしまうのです。また、タクシーの運転手が米軍を乗せて感染しました。病状がどうなるかが怖いです！？米軍人が結構外出していることが明らかになっています。

デニー知事は米軍基地の閉鎖を求めています！！

### 県議選勝利を衆院選勝利につなげよう！

コロナもあり、人は行かなくてもカンパが一番！

## お知らせ

「ふじさわ・九条の会 秋の学習会」

(内容未定)

10月18日(日)午後2時～午後4時予定

藤沢市民会館第二展示ホール